



鐘楼 (北西面夜景)

観音

平成16年 3月
第38号

発行

広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-4
真言宗 正観寺
小出真行

一語一会

一期一会だからこそ、

人の一語に耳を傾け理解しよう。

この度『正観寺鐘楼堂』建立(再建立)に深いご理解とあたたかいご寄進をいただき感謝しております。皆様よりの浄財は『鐘楼堂の再建』に充てさせていただきました。

尚、昨年八月に行いました地蔵祭りには皆様の眼前に姿を現し(夜間には幻想的にライトアップされる)、これからも鐘の音で心の闇を打ち消していただければ幸いです。

「アンコールワット・ベトナム研修旅行②」

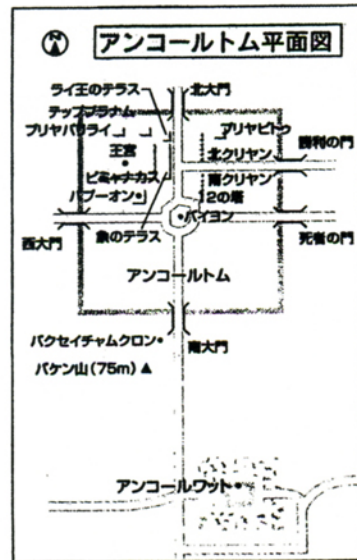
ヒンズー教寺院のアンコールワットに対し大乘仏教寺院の「アンコールトム」は群を抜いた遺跡であった。

「アンコールトム」は、12〜13世紀初頭、クメルト王国の最盛期の王、ジャヤヴァルマン7世により建てられた城塞都市で「トム」とは大きいという意味。幅一三mの堀と高さ八m、一辺三km



アンコール王朝最盛期に建築されたバイヨンの全景

の城壁に囲まれており、五七の城門が外部に通じている。城内の遺跡の中心は仏教寺院、バイヨン。ここには観世音菩薩が彫られた五十基ほどの巨大な岩石の塔が林立している。



「南大門」

アンコールトムの中核であるバイヨンの入口は左右各五十四体の彫像がずらりと並ぶ南大門だ。巨大な四面仏が門の上に彫られている。左右に並ぶ彫像も頭部がけずりとられなくなっているものがあ



「バイヨン」

アンコールトムの時代はヒンドゥー教に代わり大乘仏教が信仰されていた。大乘仏教では出家修行者だけでなくすべての人々を救済することを教えとし、悟りを求め成仏を信ずる人は誰でも菩薩とした。バイヨンの中央神殿を囲むようにそびえる四面仏塔は慈悲の力で人々を救済するための観世音菩薩の顔で慈悲が世界に届くように四面を向いている。



「象のテラス」

バイヨン北側にある王宮のテラス、戦いに勝利を収め、凱旋するクメール軍を、王はこのテラスに立って閲兵した。このテラスは三つの頭の神象に守られ、壁面には戦いの場での象の姿やヴィシユヌ神の乗り物である神鳥ガルーダが彫られテラスの前には勝利の門に通ずる道が真つすぐ延びていた。



象のテラス

「勝利の門」

アンコンルトムの東側にある門。戦いに勝ったクメール軍は、勝利の門をくぐって城内に凱旋した。ここから真つすぐ進めば王の立つ象のテラス前が出る。ここにも南大門と同じように四面仏が頭上高くほほ笑み、門の両脇には三つの頭の神象が配されている。



「ロリュオス遺跡」

ロリュオス遺跡は、シエムリアップの東十三kmに位置するアンコール築都以前のハリハララーの都の跡。主な遺跡には、大貯水池インドラタターカの中央にその落成を記念して立てられたロレイ寺院があり、これは東西メボンの原型といわれる。

なかでも「聖なる牛」の意味をもつプリアコー

はインドラパルマン一世が両親に捧げた寺院で貴重な当時の漆喰彫刻と聖中ナンディンと獅子の像が残っている。



ロリュオス遺跡

シエムリアップの人々の生活は日の出とともに始まる。まだ薄暗い早朝からバイクや自転車が行来し始め活気づく。そして日没とともに静けさが町を包み込む。少しでも町なかからはずれてしまえば、未舗装でデコボコだらけの赤土の道が続き、一台のバイクに数人の家族が乗り合わせ、荷台にブタをくくりつけたバイクが通り過ぎる。バナナやヤシの木の間には伝統的な高床式の家々が並び

裸足で小さな子供が犬やアヒルと遊んでいたりと、やせこけた牛が草を食べたりと、信じられないのどかな景色が広がる。

ただ舞踊を見ながら食事をしたが、コウソウという野菜が入ると全然食べれなかったのが印象的であり、次に来る時は、梅干しを持参したかった。

年忌法要と塔婆

一般に年忌法要のことを「追善」、あるいは「法事」といっています。このうち追善といいますが、「追福修善」、もしくは「追福作善」のことで、年忌法要も含めて、年忌とは関係なく故人の供養のために営まれる全の行事をさすわけです。

これは芸能人の間で催される追善興行、茶人の間で行われる追善茶会、華道の間で行われる追善華展などといったことばからも理解できると思います。また、法事といいますが、追善法要などもふくめて仏事一般をさすことになり、その意味するところのものはさらに拡大されます。

ところで、真言宗では年忌法要を営むときには必ず「卒塔婆」を用意しなければなりません。卒塔婆は略して「塔婆」ともいわれ、地水火風空の五輪が刻まれてあることから「五輪塔婆」とも呼ばれています。むかしは財力に応じて様々な塔婆

が建てられていましたが、今ではほとんど木で作った角塔婆か板塔婆です。

五輪の形はいちばん上が真ん中の少しとがった球状で、これを「団形」といいます。次が「半月」で上弦の月の形をしています。その次が「三角」、その下が「円」、そして最後が「方」といって四角です。

これを少し図案化するとともに、下の方形のところを長くして、建立の趣旨などを書けるようにしたのが今の卒塔婆です。方形を地大、円は水大、三角は火大、半月は風大、団形は空大です。このうち、風大はなぜ半月で表すのかといいますが、これは布で作ったノボリの半月が風に吹かれていく形なのです。

以上の「地水火風空」の五輪で一つの仏体となります。この五輪の卒塔婆の表と裏に、それぞれ決められた梵語の種字を書きますのは、この卒塔婆を仏心両面を兼ね備えた完全な仏体とするためです。そしてこの卒塔婆の建てられたところが、そのまま浄土となるご直言もその裏に書き加えられています。

卒塔婆は「功德聚」とも訳されていますとおり、ありとあらゆる善根功德の集積するところのもので、この年忌法要のために費やした努力はもろろん、それまで勤めてきた仏事の功德のすべてが、この一本の卒塔婆に結集されて、故人に供養され廻向され、仏果精進の礎となってゆくわけです。

参加者募集

一、平成十六年四月十二日(月)

〃十四日(水) 二泊三日

【小豆島巡拝】

費用 三六、〇〇〇円

二、平成十六年七月五日(水)

〃六日(木) 一泊二日

【石鎚山参拝】

費用 三三、〇〇〇円

※お問い合わせ

〇八二―二八二―五六六二迄

○平成十六年度 年間行事予定

一月一―三日 修正会

一月二十一日 初大師

二月 三日 星祭

三月 十四日 観音大祭

四月十二日―十四日 小豆島巡拝

七月五日―六日 石鎚山参拝

八月二十二日 地藏祭

十二月三十一日 年越し祭

